

宮私幼PTAだより

第82号

発行者 宮私幼PTA連合会
行先 宮私幼PTA連合会
編集者 廣事務局長
編集委員 仙台市青葉区国分町三丁目6-12 佐正第二ビル6F
電話 (022) 263-7040 番



**『幼児教育無償化』に向けた
運動を展開しよう**

会長 渥美 巖

八年前の小泉総理大臣の時代から、自民・公明両党が検討し、昨年末の衆院選挙で自民党が公約した「幼児教育の無償化」が、いよいよ実現に向け動きだしました。

去る七月十一日開催の宮私幼教育振興大会、同PTA研修会の席上、文部科学省幼児教育課長から六月に開催された政府・与党における「幼児教育無償化に関する関係閣僚・与実務者連絡会議」の方針等の説明を受けました。概要は、平成二十七年年度から「子ども・子育て支援新制度」がスタートする中で、「幼稚園と保育所の負担の標準化、未就園児への対応、低所得世帯・多子世帯の負担軽減」等の「環境整備」と、全ての五歳児を対象とすると約二千五百億円となる「財源確保」の方策を検討しつつ、先ずは第三子以降の「五歳児」の無償化を平成二十六年年度から実施し、段階的に取り組む方針とのことでありました。

宮城県私立幼稚園PTA連合会の今年度事業計画では①全ての子どものために、よい環境をつくる。②よい親、よい教師になるための研修を深めよう。③保護者の負担軽減の為、更に努力しよう。との目標を掲げております。「幼児教育の無償化」に向けては署名活動を行って来ましたが、三歳〜五歳まで、全て無償化していくには、財源の課題もあるので、全日本私立幼稚園PTA連合会等との連携をとりながら、政府並びに自民党国会議員に、必要な運動を展開していきたいと思っております。

村井知事には、東日本大震災で被災した幼稚園舎の再建や被災園児の授業料減免補助の継続支援に感謝致しておりますが、園児一人当たりの運営費補助は全国下位ですので、宮城県の財政力にふさわしい順位を目指し、今後とも陳情・要望を行って参りますので、皆様の協力をお願い致します。



**宮私幼教育振興大会並びに
宮私幼PTA研修大会に参加して**

旭ヶ丘幼稚園
園長 早坂文彦

去る七月十一日、恒例の教育振興大会及びPTA研修大会・全日私幼東北地区フォーラムが、「高めよう絆を！子育ては、親と地域と幼稚園」のスローガンのもと、仙台市国際センターを会場に行われました。雨の中ではありましたが、時宜を得た良い学びができたのではないかと思います。

振興大会では、関係各方面からのご挨拶・祝辞の後、大会宣言として、震災からの復旧を願いつつ、幼児の成長と子育て支援、公的助成、震災復興支援の三点が確認され採択されました。

引き続き行われた東北地区フォーラムでは、東北地区長の児



玉昭平氏のご挨拶の後、文部科学省幼児教育課課長の蛭名喜之氏を講師に「幼稚園教育を中心とする幼児教育の無償化実現に向けて」と題する講演が行われました。講演では、無償化の意義として、学術的研修の積み重ねによって幼児教育の重要性が再認識されてきたこと、少子化の現状で安心して子育てのできる社会環境が不可欠であることなどの認識が述べられ、更に無償化実現に向けて行政の側でのこれまでの経緯とご努力をお示しいただきました。

今日の教育が、何を覚え何ができるかを問うものから、いかに問題を解決するかを問うものに変化しつつある中で、幼児期にこそ培われるべき「学びに向かう力」を育てるために、諸外国ではしのぎを削って教育改革と幼児教育の無償化に乗り出しつつあると聞きませう。こうした大きな流れの中で、本大会とフォーラムは大変意義深いものであったと思います。殊に今回採択された「幼児教育の無償化を求める宣言」で謳われた「質の高い幼児教育」は、昨今のかしましい制度上の改革論議において忘れてはならない視点です。



もう一つの講演では、子どもがまんなかPROJEC Tセミナーとして、医学博士家森幸男教授のお話を、『大豆は世界を救う』大豆を食べる親子で健康に』と題して、お伺いする機会に恵まれました。家森先生はWHOの委託を受けて全世界の食生活を調査され、主として循環器系の疾病に対する食文化の影響を調査されました。講演はこの調査に基づくもので、大豆のみならず海産物や緑黄色野菜など、伝統的な日本の食生活がいかに健康に不可欠であるかを力説されました。五十年代半ばを過ぎ、生活習慣病が気になりだした私は、興味津々で、長時間の講演であったにもかかわらず、時間はあっという間に過ぎてしまいました。学者としての真摯な姿勢のみならず、医師として人々の健康を願う情熱にも深く感銘を受け、素直な気持ちで「よし、大豆だな!」と、明日からの食生活を改善しようと心に決めつつ帰路につきました。

全日本私立幼稚園PTA連合会 全国大会報告



角田カトリック幼稚園(T)
八巻美幸

七月二日に、ホテルオークラ東京を会場に、「次代(あす)を担う子どものために」家族の絆に心ゆたかな子」をスローガンとした第二十八回全日本私立幼稚園PTA連合会全国大会が開催されました。今回参加する機会を頂き、宮城県より四名の方々と一緒に出席して参りました。

七月二日に、ホテルオークラ東京を会場に、「次代(あす)を担う子どものために」家族の絆に心ゆたかな子」をスローガンとした第二十八回全日本私立幼稚園PTA連合会全国大会が開催されました。今回参加する機会を頂き、宮城県より四名の方々と一緒に出席して参りました。

化の実現を願う書名文書だとの説明があり、多くの方々の熱い願いが多くのだんボールの数により、強く感じました。

世界の子どもの考えと比較しながら、又ご自身が父親から言われた大切な言葉、「人は自分のためではなく、人のためにまず動きなさい」といったことを引用され、幼児教育の大切さを話されました。幼児期は、人間形成にとって、最も重要な時期だからこそ、子ども自ら苦労を体験する事が必要であり、親もこれらの重要性を確認する事が必要で、その苦労を乗り越えることから成長がある。とおっしゃっておられた事が印象的でした。

一部には、安倍晋三総理をはじめ、下村文部科学大臣、橋本聖子議員等、錚錚たる議員が来賓でありました。総理挨拶の後、書名の請願書を手渡し、無償化の早い実現をお願いしました。

課題も多い現代だからこそ、次代を担う子どもたちのため、まさしく今、幼稚園と家庭、そして子どもを取り巻くすべての人がスクラムを組み、一人一人を大切にそして互いに認めあえる心豊かな子ども達が、この日本をそして世界を、大切にしていける子どもを育てる使命が私達にあることを確認できた大会で実りある一日でした。

又、大会宣言においても、代表の保護者が幼児教育の無償化によって保護者負担を減らし、その運動の結果、日本のすべての幼児がより質の高い幼児教育が受けられるよう、「子どもの教育の原点が家庭にある事、教師も自らの人格研鑽に努める事、地域の人々との絆を深め安全で安心して暮らせる地域社会、つくりこに努める事」等四項目にわたる決議文を読みあげ、文部大臣に手渡しました。

二部では、元内閣総理でもあり全日本私立幼稚園PTA連合会最高顧問である、森喜朗氏の「世界と日本の子ども達」と題した記念講演でした。

現代の子ども達がこれからの日本を担う役割であるがゆえ、現代の日本の子ども達が抱える問題を



8回全日本私立幼稚園PTA連合会全国大会
(あす)を担う子どものために 家族の絆に心ゆたかな子



- ### 平成二十五年役員名簿
- 会長 渥美 巖 矢本はなぶ P
副会長 中島 源陽(研)いわてやま P
" 稲富 将夫(広)矢本はなぶ T
" 横澤 行夫(研)お人形社 T
" 霜山加奈子(広)岩沼さくら P
監事 渡辺 文雄(体)遠山 T
" 〇江戸千恵子(体)さいわい P
" 阿部 幸子(体)成田中央 P
事務局次長 菅原 彰 すがわら T
" 菅原 千廣 宮私幼事務局
" 寺澤 正志(体)八幡花園 P
委員長 佐々木幸士(体)富沢 P
" 〇岩山 伸次(体)東盛 P
" 〇佐々木拓真(広)みづみ P
" 岡本 弘美(体) " P
" 〇林 奈奈(研)旭ヶ丘 P
" 早坂 文彦(研) " T
" 安西 香(体)いずみ松陵 P
" 久保田麻弓子(体) " P
" 堺 和宏(研)葎の芽 P
" 小野寺純一(研) " T
" 佐藤 嘉一(研)中新田 P
" 佐藤 友紀(研)千手寺 P
" 日野 和江(研)さくら P
" 佐藤 澄江(研) " T
" 鈴木 美帆(体)遠山 P
" 伊藤 美雪(広)岩沼さくら P
" 〇水野 郁子(広) " T
" 〇一條 紅根(研)角田カトリック P
" 小野寺洋一(研) " T
" 金田 郁子(体) " T
" 菅松 周恵(広)法山寺 P
顧問 中野 正志 お人形社第二 P
" 中沢 幸男 宮城学院附属 P
" 菊地 文博 東岡 P
" 〇各研究会副会長
" 〇各部会部長 (体) 体育部
" 〇各部会副部長
" 〇各部会部長 (研) 研修部 (体) 体育部
" 〇各部会副部長
" 〇各部会部長 (研) 研修部 (体) 体育部
" 〇各部会副部長
" 〇各部会部長 (研) 研修部 (体) 体育部

平成二十五年 今後の会活動予定

- 9月5日 バレーボール代表会
- 9月 第二回役員会
- 10月22日 第三十八回 親善バレーボール大会 (グランディ21)
- 2月 東北地区私幼PTA 連絡会議
- 3月1日 PTAだより 第83号発行
- 時期未定 地区研修会 (仙南地区・石巻地区)
- 時期未定 知事陳情

あ と が き

「宮私幼PTAだより」第八十二号をお届けいたします。ご執筆をいただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。
今年度は「宮私幼PTA研修大会」と「全日私幼PTA連合会全国大会」が七月開催となったため、本号の紙面の大部分を、その報告記事に使わせていただきました。次号では、今回掲載できなかった各単Pの活動報告などを中心に編集していきたいと思っております。
夏休みが終わり、一まわり大きくなった子ども達の歓声が幼稚園に響いていることでしょう。子ども達にとって、二学期の園生活が充実したものなることを祈って、あながきとさせていただきます。
(広報部長)